

令和6年6月7日

令和6年度静岡市協働パイロット事業審査委員会 審査結果講評

令和6年度静岡市協働パイロット事業審査委員会
委員長 川村 美智

令和6年度の静岡市協働パイロット事業では、10件の協働事業が提案されました。各企画提案について、新規事業一次審査（書類審査）を実施し、これを通過した5件の企画提案を対象に新規事業二次審査（面接審査）を実施しました。あわせて、令和5年度に採択された事業の継続提案について、書類審査を実施しました。

「協働事業」とは、具体的な個別の課題について、それぞれ自らの果たすべき役割及び責務を自覚して、自主性を相互に尊重しながら、協力し合い、又は補完し合って行うものをいいます。

協働パイロット事業においても、本市全体の社会的課題について、本市と実施団体が協働して取り組んでいく提案を期待するものです。

新規事業の審査においては、次の6つの評価点に基づいて評価・採点を行いました。

- (1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか
- (2) 協働にふさわしい事業か
- (3) NPOの先駆性・創造性を活かした事業か
- (4) 実行性が十分に感じられるか
- (5) 予算の見積りは適正か
- (6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か

協働パイロット事業は試行的な協働事業ですが、これを契機に本格的な協働事業への発展や、継続的な事業実施へのステップアップを目指すものであるため、「(1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか」、「(2) 協働にふさわしい事業か」及び「(6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か」については、特に重点を置いて評価をしました。

新規事業二次審査の結果、以下の4件の企画提案を令和6年度静岡市協働パイロット事業の候補として選定しました。

- 1 大谷・小鹿における協創プラットフォーム構築に向けたコミュニティリーダー発掘・育成事業

特定非営利活動法人 ESUNE

- 2 こもればいカフェ in あさはた緑地（仮称）
一般社団法人グリーンパークあさはた

- 3 静岡市のマンションの防災力の向上させる「マンション防災の手引き」作成事業
里山くらし LABO
一般社団法人 しずおか住環境防災サポートセンター

- 4 放任竹林を活用したレッパーくんのもぐもぐサポートプロジェクト
特定非営利活動法人 BASSplus

継続事業に関しては、次の4つの視点に基づいて評価を行いました。

- (1) 初年度事業について、社会的課題の解決に対して一定の成果が認められるか。
- (2) 初年度事業の成果を踏まえた事業提案となっているか。
- (3) 本格実施への発展性が見込める事業か。
- (4) 予算の見積りは適正か。

継続事業審査の結果、令和6年度静岡市協働パイロット事業の候補として選定した事業はありませんでした。

【審査委員講評】

提案事業名：大谷・小鹿における協創プラットフォーム構築に向けたコミュニティリーダー発掘・育成事業

提案団体名：特定非営利活動法人 ESUNE

審査結果：選定する

課題テーマ「地元大学と連携した地域力向上プロジェクト」に対する提案をいただきました。

本提案は、区画整理事業が進む大谷・小鹿地区において居住している箇所や年代により住民の分断が懸念される中、まちづくりに積極的な市民を発掘し、コミュニティリーダーとして育成するとともに、地域のステークホルダーが気軽に参加し、ゆるやかで開かれた活動に参画する機会を提供する「協創プラットフォーム」の実装に向けた準備を柱とするものです。

大谷・小鹿地区は静岡大学をはじめとした大学生が多数居住している地域でもあります。コミュニティリーダーの発掘を大学生との協働で実施する等、提案団体におけるこれまでの活動により培われた若い世代とのつながりを活かした事業内容であり、課題の解決と団体の強みを組み合わせた提案である点が高く評価され、採択候補事業として選定されました。

なお、一般社団法人グリーンパークあさはたから提案された「こもればカフェ in あさはた緑地（仮称）」事業とは、コーディネーターの発掘・育成という点で共通点があることから、両者の連携により更なる事業の発展を期待します。

提案事業名：こもればカフェ in あさはた緑地（仮称）

提案団体名：一般社団法人グリーンパークあさはた

審査結果：選定する

課題テーマ「みどり（公園・緑地）を活かしたまちづくり人材の育成支援事業」に対する提案をいただきました。

みどり（公園・緑地）の市民による活用を活発化するという課題に対し、みどりを専門とする人材を養成するのではなく、公共空間の活用という視点から、まちづくりに精通したコーディネーターを養成するという着眼点がよく、NPOとしての先駆性・創造性が活かされた提案であると評価しました。また、提案団体はあさはた緑地交流広場の指定管理事業を受託しており、今回の提案と指定管理業務との連携も練られており、相乗効果が期待できるという点も高い評価につながり、採択候補事業として選定されました。

提案事業の実施にあたっては、大学生などの若い世代を巻き込んでいくことも重要と考

えられるため、そうした層が参加しやすい方法を研究いただきたいと思います。また、特定非営利活動法人 ESUNE から提案された「大谷・小鹿における協創プラットフォーム構築に向けたコミュニティリーダー発掘・育成事業」とは、コーディネーターの発掘・育成という点で共通点があることから、両者の連携により更なる事業の発展を期待します。

提案事業名：静岡市のマンションの防災力の向上させる「マンション防災の手引き」作成事業

提案団体名：里山くらし LABO

一般社団法人 しずおか住環境防災サポートセンター

審査結果：選定する

分譲マンションに特化した災害対策を推進するための「手引き」作成事業をご提案いただきました。

各地で大規模な自然災害が頻発する昨今、これまであまり注目されていなかったマンションの防災対策の強化を目指すという提案は、役員の高齢化や担い手不足により地域コミュニティの希薄化している中でマンション住民自身が自らの安全を確保するという意識の向上につながるという点で重要な取組であると言えます。加えて、市内で地域コミュニティ支援を担ってきた団体とマンション防災対策を専門とする団体による提案であることも含め、事業の実行性が十分に感じられる点も評価され、採択候補事業として選定されました。

「手引き」自体は他都市での作成事例がありますので、現状把握等の結果を踏まえた静岡市の状況を反映し、市民が使いやすい「手引き」となることを期待します。

また、出来上がった手引きをいかに活用してもらうか、そのための施策もあわせて検討していくべきであるという意見も委員から出ました。「手引き」の内容が広く分譲マンションの住民に浸透するよう、例えばワークショップの実施等、よりよい活用方法も継続して検討いただきたいと思います。

提案事業名：放任竹林を活用したレッパーくんのもぐもぐサポートプロジェクト

提案団体名：特定非営利活動法人 BASSplus

審査結果：選定する

市内にある竹林を適正に整備する際に発生する竹を日本平動物園で飼育されているレッサーパンダの飼料に活用するという事業についてご提案いただきました。

伐採した竹の活用方法が限定的であることにより放任竹林が拡大していることとレッサ

ーパンダの飼料調達にコストを要することという異なる2つの分野の課題解決に対して有効な提案であり、社会的課題をしっかりと把握できているとともに、静岡市が聖地としてPRしているレッサーパンダに着目する等、静岡市らしさもあり、市との協働にもふさわしい点が評価され、採択事業候補として選定となりました。

今後は児童に竹林整備体験と自身が伐採した竹をレッサーパンダの飼料として提供される場面を見学する機会をセットで提供することも検討しているとのことでした。本格実施に至った場合における協働の拡大といった観点からも、様々な検討を行っていただき、更なる事業の磨き上げに期待します。

なお、提案団体からは企業協賛を得て提案団体の活動に充てたいという意向を伺っています。協働パイロット事業においては竹林整備団体と日本平動物園との調整業務等に限ることとし、その範囲内の活動には企業協賛を充てないよう留意してください。

提案事業名：オーガニックアンバサダー養成講座

提案団体名：宇宙サイクルLABO

審査結果：選定しない

有機農業に関する市民への啓発を目的として有機農業等の知識を周知する人材（オーガニックアンバサダー）を養成する事業の提案をいただきました。

有機農業に関しては市立小学校の給食に取り入れるなど静岡市としても推進しているテーマであり時流に即している点や、体系的に知識を有する人材が増えることで市民への知識の波及効果が期待できる点等が評価されました。

一方で、この講座を通じて要請されたオーガニックアンバサダーがどういった場面で活躍できるのかが提案の中では不明確であり、具体的に目指すものがあるといいという意見がありました。加えて、市民の知識不足のみが有機農業の普及の支障となっているのか、課題に関しての調査分析をより具体的に実施されたい、という意見もありました。

有機農業の普及というテーマに関しては、多くの市民活動団体が活動している分野です。先行事例の調査や団体との連携も視野に、より実行性のある事業になることを期待しています。

提案事業名：みんなで創る中高校生の居場所事業

提案団体名：特定非営利活動法人しずおか共育ネット

審査結果：選定しない

中高生の「挑戦したい」という気持ちに寄り添い、ユースセンター機能を有する場所を

整備することにより、高校生の居場所とチャレンジを支援する体制を整備するという提案をいただきました。

本提案は、静岡市子ども・子育て・若者プランの基本理念を尊重した上で、実際に高校生からのヒアリングに基づいて事業立案に至っており、市民ニーズはよく把握されています。ユースセンター機能の充実という点では国の施策にも沿った提案であり、高校という枠を離れてキャリア教育を行う「学びの場づくり」としても一定の意義があるものと評価できます。

一方で、「居場所」にはいつ訪れても受け入れられるという信頼性を担保することが大切ですが、提案によると「居場所」の運営は月に2回の開設にとどまり、提案団体の意図している「居場所」としての効果に限定的ではないかという意見や、市で同様の施策を実施している中、提案からはNPOとしての先駆性・創造性を見出しにくい等の意見がありました。先行事例の研究も含め、もう少し掘り下げてご検討いただけるとよりよい提案につながったものと考えます。

提案団体は市内の教育現場でも広く活動を行っている団体であり、提案事業の企画スタッフの中心が大学生と高校生ということにも注目しております。今回は選定には至りませんが、これまでの団体の活動において得られた課題や知見を反映し、市との協働にふさわしい事業に磨かれることを期待します。

提案事業名：出張IT村 自治会から地域団体へ広げる情報リテラシーUPを目指した新共助の取り組み支援

提案団体名：特定非営利活動法人静岡団塊創業塾

審査結果：選定しない

課題テーマ「情報弱者のための教え合い支え合いの場づくり」に対する提案をいただきました。

デジタルを使いこなす層と高齢者や障がい者などデジタル技術の利活用が限られる層との間に情報格差が広がっている中、デジタルリテラシーの低い高齢者が中心となって運営されている自治会については、若年層の加入が大きな課題となっています。自治会役員の負担軽減や担い手の不足の解消を目指すには自治会のデジタル化がかかせません。提案団体のこれまでの活動経験を踏まえた、自治会役員に向けたデジタルデバイスの支援だけでなく、最終的には地域の中で教え合いができる共助の仕組みをつくるといった事業内容は、社会的課題を的確に把握しているものです。

しかし、丁寧な対応であることは評価するものの、静岡市にある900以上ある自治会のうちの2つを対象とした今回の提案に対して、予算が比較的高額になっており事業の本格実施に至る可能性が少ないのではないかという指摘がありました。また、地域の中には十

分に知識を持った人材も含まれていると想定されますので、そうした人材の活用も考慮すべきであるという意見がありました。

今回は選定には至りませんでした。事業の内容を広く市内に浸透させていくための方策等についての具体的に検討いただくなどにより、より静岡市にとって費用対効果の高い事業となるよう再構築を期待します。

提案事業名：教育課題解決事業「未来」

提案団体名：静岡の未来を拓く会

審査結果：選定しない

静岡市の教育課題に関して多種多様な関係者が協議をする場の設置等、教育課題を解決する提案をいただきました。

教育に関わる課題は行政だけで解決できるものばかりではなく、保護者や地域住民などの多様なステークホルダーが興味を持ち、解決に向けてともに考えていくことは重要です。この点、提案には提案団体のネットワークを駆使し、様々な立場の方に議論への参加を促していくということを想定しており、提案団体の資源を有効に活用した提案となっています。

しかし、事業内容については、既に提案団体が行っている活動が多いことに加え、市と協働することによるメリットが明確に見い出すことができませんでした。「協働パイロット事業」という枠組みにおいて市と協働することによる効果について、より具体的に検討する必要があるのではないかなど意見があがり、協働にふさわしい事業かという点において高い評価を得るに至りませんでした。

企画提案書からは、団体の教育課題解決への高い情熱を感じることができました。市との協働について改めて意義をとらえなおし、団体の情熱やノウハウと市の持っている強みとをうまく結びつけるような事業となるように期待します。

提案事業名：落語を聴きながら静岡市の行政の役割を知ろう。

提案団体名：特定非営利活動法人静岡ユネスコ協会

審査結果：選定しない

静岡市の行政課題をわかりやすく広報するための事業についてご提案いただきました。

本提案の、子どもたちに向けて行政が抱えている課題をわかりやすく伝えるために「落語」というツールを用いるという手法については、アイデアが非常に面白いものであり、その発想は市民活動団体ならではの創造性が発揮されたものであると評価されました。

一方で、行政課題を分かりやすく伝えるというコンセプトは理解するものの、その効果については限定的ではないかという意見がありました。子どもたちも行政課題について広く学習を進めていることから、例えば子どもが伝統芸能に継続的に関わることで行政課題を定期的に考える機会を与える仕組みなど、理解度を深める方向の仕掛けもあわせて検討いただくことで、より効果があがるのではないかといった意見がありました。

児童の社会教育と伝統芸能という枠組みでは、全国的には能楽などにおいて先行事例もあります。今回は選定には至りませんでした。こうした先行事例を研究いただき、単に子どもに行政課題を教えることにとどまらない提案となることを期待しています。

提案事業名：西部パソコンサロンパワーアップ計画（仮）

～コロナ禍以前の活気を取り戻す～

提案団体名：パソコンわかばくらぶ

審査結果：選定しない

課題テーマ「情報弱者のための教え合い支え合いの場づくり」に対する提案をいただきました。

情報化社会の発展を踏まえ、静岡市もDX化を推進していくこととしている一方で、高齢者をはじめとした一部の方には、そうした流れから取り残される懸念があります。この課題に対して、高齢者層にも普及し始めたスマートフォンの活用技能の習得を共助の形で実施するという、現在生涯学習センターで実施しているパソコンサロンの運営経験に基づく地に足の着いた解決策をご提案いただき、事業の社会的な意義や予算の適正性といった観点では高く評価されました。

一方、提案内容としては、基本的にはパソコンサロンで行っている内容の延長線上にある事業ですが、パソコンとスマートフォンでは市民の受講に対するニーズも異なると考えられます。NPOならではの発想力を活かし、スマートフォンの操作知識を必要としている人がより知識を習得しやすい工夫が盛り込まれた提案まで期待したいという意見が出ました。

今回は選定には至りませんでした。団体の活動経験を踏まえて、より広い視点での事業立案をご検討いただければと思います。

提案事業名：つながりのその先へ！共にチャレンジ！みんなが主役！誰もがチャレンジし活躍できる機会の創出

提案団体名：つながりあいず

審査結果：選定しない

令和5年度からの継続として、生きづらさを抱えた人たちが相互に語り合えるコミュニティ形成と情報発信事業として提案いただきました。

本提案は、令和5年度に実施した孤独感を抱える人を応援する事業を発展させ、より参加者個々人がチャレンジしやすい環境を整えていくとともに、オンライン交流会や事例紹介を通じて多様なあり方を共有し、社会的不安の解消を目指すものです。委員からは事業の趣旨や意義については非常に重要であり、市がフォローできない領域を補う事業内容であるも踏まえ、ぜひ持続的に続けていただきたい活動であるとの声がでました。

しかし、昨年度の結果からも協働事業としては効果が限定的とも考えられ、「フラットな居場所を創る」という事業内容からも、市の委託事業という形を離れた方が効果があるのではないかという意見や、使用する会場費の設定や作成する冊子の費用に工夫の余地があるのではないか等の予算見積もりの適正性に関する意見があり、選定には至りませんでした。

上記のとおり、行政の手が届きにくい方々に対し、市民活動団体の特性を生かして支援していくことの意義は大きいものがあります。提案団体にあっては、事業内容を改めて精査されるとともに、事業の方向性に見合った助成金を活用いただく等により、引き続き事業を実施されることを期待します。